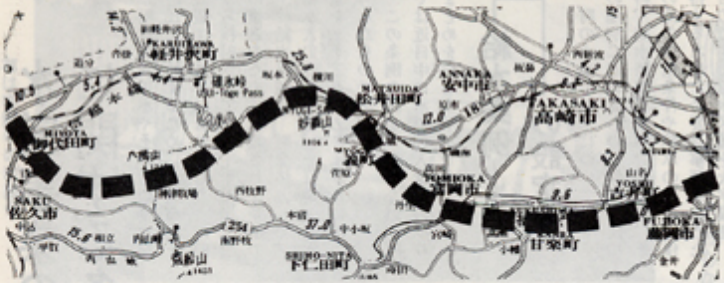
関越自動車道直江津線

藤岡～長野間のコース案決まる



国が建設する「国土開発幹線自動車道」のうち、東京から新潟県上越市を結ぶ「関越自動車道直江津線」のうち、群馬県の藤岡市から長野市までの「藤岡・長野間」の国土開発幹線自動車道建設線の基本計画案がまとまり、さきほど国からそのコースが発表されました。

関越高速自動車道直江津線建設省基本計画路線のうち当町通過予定地の略図

それによりますと、建設線のおもな経過地は、藤岡市から甘楽町富岡市、佐久市、小諸市、上田市更埴市を結ぶコースで全線四車線設計速度は平地部で毎時百キロ、山地部で八十キロ、山岳部で六十キロが予定されています。

当町の通過予定地の略図は別図のとおりですが、工事の着工時期は未定です。

農協前に信号機
―近く設置されます―

地元のみなさんの要望により、近く農協前に「交通信号機」が設置されることになりました。それにともない小幡地内の丸善石油前から長谷川ガソリン店付近までの県道間と、農協から小幡医院先の町道付近までが、それぞれ駐車禁止区域になる予定とのことです。

みなさんの家庭においても、幼児やおとしよりに信号機の正しい見わけかた等について家庭指導を行ない事故がおきないように心がけておきたいものです。

関越自動車道の機能と効果

高速道路網の整備は、経済社会の発展をはかり、新しい社会に対応した新しい環境を形成するための最も重要な施策のひとつです。国土利用の抜本的な再編成を促し、全国土の均衡ある発展を推し進めるうえで欠くことのできないものでもあります関越自動車道は、この高速道路網の整備の一環として建設されるものです。現在、関越間の自動車交通は、国道十七号線に依存していますが、昭和四十六年の国道十七号線の自動車交通量は昭和三十七年のそれに較べて約二・五倍～五・五倍へと急激に増大しており、自動車交通による関越間の結合は限界に達しようとしているといわれます。このことは日本海沿岸地域と太平洋沿岸地域の地域格差を是正しえないばかりか、日本海沿岸地域の発展を阻害しているといっても過言ではありません。そこで、関越自動車道を建設し、増大する交通需要に応え、国道十七号線による結合の限界を打破し、日本海沿岸地域と太平洋沿岸地域の関係に一大革新をもたらすものであり、日本海沿岸地域に新たな役割と可能性を開こうとするものです。このように関越自動車道は、日本海沿岸地域と太平洋沿岸地域の結合を飛躍的に強化し、両地域の均衡ある発展をはかる大動脈であるわけです。また関越自動車道は、東京から本県までの時間距離を短縮し、約一時間で結びつけ、群馬県と京浜地帯との結びつきをさらに有機的なものとし、本県と日本海沿岸地域との結合を強め、日本海沿岸地域と太平洋沿岸地域との交通の結節点として県央部の役割を大きく高めようとしています。

× × ×

社会教育推進研究会
6月20日公民館で開催

六月二十日、郡の社会教育推進研究会が町の公民館で開催されました。この研究会は、甘楽郡社会教育振興会（茂原嘉久外茂会長）が主催したものです。激しく変動する現代社会にあって、生がい（涯）教育の視点にたち、社会教育のあり方を検討するとともに地域の実態にマッチした社会教育の推進策について研究協議し、問題点の解決を図ることを目的に開催されたものです。当日は郡内各町村長をはじめ議会議長、各種団体代表、社会教育関係役職員等約百十名が出席し、午前中は「地域社会教育の現状と課題」と題して各代表者によるパネル討議、午後は県の社会教育課長の戸所文太郎先生の講演があり、熱心な話し合いがもたれました。

右はその会議のようす